

# 日本とブルガリアの学術交流の可能性を探る

チャン ホアンナム  
TRAN Hoang Nam  
高等教育研究センター  
徳島大学

マリノヴァ・カーテヤ  
MARINOVA Katya  
古典・東洋言語文化学科/日本語・文化センター  
ヴェリコ・タルノヴォ大学

ヴァシレヴァ・マグダレナ  
VASSILEVA Magdalena  
古典・東洋言語文化学科/日本語・文化センター  
ヴェリコ・タルノヴォ大学

ミネヴァ・ミリツァ  
MINEVA Militsa  
古典・東洋言語文化学科/日本語・文化センター  
ヴェリコ・タルノヴォ大学

要旨：2022年11月、ブルガリアを訪問し、徳島大学（TU）とブルガリアのヴェリコ・タルノヴォ大学などとの国際交流活動の可能性について調査した。ブルガリアでは、在ブルガリア日本大使館、ソフィア大学、ヴェリコ・タルノヴォ大学（VTU）を訪問し、国際会議「バルカン半島・地中海・東洋の文化と宗教国際学会」に参加した。本稿では、これら訪問先との関係者との意見交換と、関連文献の分析を通し、（ア）日本とブルガリアの国際交流の背景、日本語教育の現状、およびブルガリアにおける日本学、（イ）ブルガリアの代表的な大学としてのVTUとその古典・東洋言語文化学科での日本語教育および国際交流活動、今後のTUとVTUとの文化交流と学術交流の可能性などについて考察した。今後の、日本とEU間のモデル的な学術パートナーシップになることを目指している。

キーワード：ブルガリア、学術交流、高等教育機関、国際化、留学生、戦略計画

## 1. はじめに

ブルガリアは南東ヨーロッパの国で、人口は約700万人（外務省、2022）である。1989年以降、ブルガリアは市場経済を伴う民主主義に移行し、2007年に完全なEU加盟国になった。EU統合を享受しているものの、この国は依然として人口減少、移民、少子化、経済不況などの課題を抱えており、これらが国の経済成長を妨げる可能性がある（Manolov、2021）。

日本とブルガリア間の交流は、100年以上前から記録されている。1939年に最初の国交が樹立された。そして、1970年の大阪万国博覧会は、両国関係の転換点となった。冷戦とその後の政治的相違にもかかわらず、ブルガリアと日本は技術、貿易、芸術などのさまざまな分野で定期的に交流を始めた。日本は、ブルガリアとの良好な二国間関係を維持し、民主化と市場経済への移行に向けたブルガリアの努力を支持し、東南ヨーロッパ地域の平和と安定におけるブルガリアの重要な役割を強調する観点から、ブルガリアのEU加盟を支持していた。2010年まで、日本は、ブルガリアへの最大の援助供与者の1つであった。1990年以降、在ブルガリア日本国大使館は多くの団体の協力を得て、毎年秋に「日本文化月間」を開催し、ブルガリア各地で日本の伝統文化と現代文化を紹介する様々なイベントを開催してきた。近年で

は、ブルガリアでは地方自治体や民間団体が主催となり、日本文化を紹介するイベントを開催している（在ブルガリア日本国大使館、2022）。

日本におけるブルガリアのイメージは、世界中の他の先進国におけるブルガリアに対する態度と比較しても、最もポジティブなものである。一方、ブルガリアの人々の心には50年以上にわたり、日本は高度な技術、豊かな文化、望ましい調和の代名詞となっている（Mancheva、2018）。実際、今回の訪問時に、日本関連の文学やマンガが大量にブルガリア語に翻訳され、ブルガリアの街頭の本屋を席卷しているのを目撃した（写真1）。



写真1 ブルガリアの書店での日本関係の本  
（2022年11月、著者による写真）

しかし、日本語・日本文化や日本製品ブランドの人気にもかかわらず、ブルガリアに主要な生産拠点を構える日本企業の存在はないようで、主要な日本企業がブルガリアにコアビジネスを確立することもなかった。両国間のビジネス、観光、人々の交流はすくない。このような状況が、日本語を話す学生が語学力を活かして就職する機会を妨げているように思われる。

徳島大学 (TU) は、2022 年 5 月現在、ヨーロッパの 17 大学を含む世界 100 大学と学術交流協定を結んでいる。欧州の大学との学術協力を拡大・強化することを通じて、TU の学術国際化の潜在的な可能性を秘めている。新型コロナウイルスパンデミックの間、新たな国際交流の実施のために、TU とヴェリコ・タルノヴォ大学 (VTU) のスタッフと学生とのオンライン交流を行った。大学間の学術交流協定を実施するため、2021 年には、ブルガリアと日本の高等教育機関の国際化、新型コロナウイルスパンデミックの影響に関する学習モチベーション等共同研究にも取り組んだ (Tran & Marinova, 2021, 2022a, 2022b)。その結果、両大学は 2021 年 12 月に学術交流協定を締結した (Tran & Marinova, 2021)。この協定は、学生・研究者の交流、短期訪問、共同研究、教育連携などを、全学レベルで実施可能とした。

今回、2022 年 11 月 22 日～26 日、ブルガリアを訪問し、VTU 他との交流活動展開の可能性について調査を行なった。また、滞在中の 11 月 25～26 日の 2 日間は、「バルカン半島・地中海・東洋の文化と宗教国際学会」に参加した。期間中、それぞれのパートナーと多くのミーティングやディスカッションを行う機会があった。

本稿は、これら 2022 年 11 月のブルガリア訪問時の、関係者との意見交換、および関連文献を分析することにより、(ア) 日本とブルガリアの国際交流の背景、日本語教育の現状と課題、およびブルガリアにおける日本学、(イ) ブルガリアの代表的な大学としての VTU とその古典・東洋言語文化学科での日本語教育および交流活動、今後 TU と VTU との文化交流と学術交流の可能性を考察する。そして、将来的には、日本と EU の間のモデル的な学術パートナーシップになることを目指している。

2022 年 11 月 22 日から 26 日に実施したブルガリア訪問の際、在ブルガリア日本大使館の職員、ソフィア大学 (日本学科) 教員、および VTU の教職員 (副学長、国際課、文献学部、教育学部、古典・東洋言語文化学科) との意見交換時の記録

を分析した。また、以下に関する研究論文、レポート、出版物、およびインターネット記事から収集したデータに関して、文献レビューを実施した。

- (1) 文部科学省、国際交流基金、JASSO、日本の大学のウェブサイトなどの日本語資料。
- (2) 英語の情報源による出版物、学術論文。
- (3) ブルガリアの高等教育の国際化に関連するブルガリア語の情報源の出版物、ブルガリアの高等教育機関のホームページからの活動の計画と報告がレビューされた。表 1 は、調査した一部の高等教育機関の国際化に関する戦略文書と計画を示している。

表 1 著者がレビューした国際化に関する戦略文書のリスト

タイトル	期間	機関
ブルガリア共和国の高等教育開発戦略	2014-2020	教育科学省
ブルガリア共和国の高等教育開発戦略	2021-2030	教育科学省
国際化戦略	2020-2023	VTU
国際化戦略	2020-2030	ソフィア大学

## 2. ブルガリアの高等教育国際化と日本語教育状況

### 2. 1. ブルガリアの高等教育の状況

ブルガリアの高等教育制度には、37 の公立高等教育機関と 14 の私立高等教育機関を含む 51 の高等教育機関がある。ブルガリアの高等教育機関の人口あたり総収容能力は、他の EU 諸国と比べると、比較的高い。この高いキャパシティは、採用プロセスに影響を与え、教育の質に影響を与える可能性もある。ブルガリアの全大学の合計入学定員は、1989 年には 30,000 人未満であったが、2017 年には 74,000 人以上に増加した。1990 年代には 3.5 人の候補者が 1 つの入学枠を争っていたが、現在では高卒 1 人に対して 2 つの入学枠がある。入学定員を補うために、高等教育機関は、より多くの留学生を募集するか、地元の学生の入学基準を引き下げること検討する必要がある。これにより、教育の質が低下する可能性がある (Zhelev & Peneva, 2018)。

ブルガリアの高等教育機関は、教育の質の不足と、大学教育と労働市場のギャップ、ヨーロッパでの留学と競争の増加、大学でのキャリア開発の低さ、研究の促進の欠如、学術交流モビリティ

不足、インフラの悪化などの問題を抱えている (MES、2014)。これらを克服するために、高等教育法の改正 (*Higher Education Act*, 1995)、高等教育開発戦略 2014-2020 年 (MES、2014) および 2021 年 (MES、2021) を導入、高等教育機関が学問の調和と学生のモビリティの向上を目指し、欧州単位互換制度の採用を義務付けている (Petrov、2021)。

## 2. 2. ブルガリアの留学生事情

2021/2022 学年度には、220,400 人の学生がブルガリアの高等教育に在学しており、これは国内のすべての高等教育機関の総定員の半分 (48%) 未満である。合計で 12.3% が私立高等教育機関に在籍しており、17,616 人が留学生である (News.bg、2022)。ブルガリアの留学生の割合は、2013 年の約 4% から 2022 年には 8.2% に増加している。ほとんどの留学生は、医学 (58.5%)、歯科、および獣医学の分野で勉強している。留学生の出身国別では、ギリシャからの留学生が最も多く (24.1%)、英国、ドイツ、ウクライナ、マケドニアからの留学生が続く。彼らにとって最も好ましい専門分野は医療系の分野である (News.bg、2022)。

表 2 は、ブルガリアの高等教育機関に在籍している学部および大学院レベルの留学生数の推移を示している。特に、日本を含むアジア諸国からの留学生は少ない。

表 2 2015 年～2022 年の留学生入学者数の推移 (Infostat、2022)

学年度	全国籍	日本
2004/2005	8,279	4
2005/2006	9,141	5
2006/2007	8,921	3
2007/2008	9,137	3
2008/2009	9,293	9
2009/2010	9,938	15
2010/2011	10,219	11
2011/2012	11,064	20
2012/2013	11,386	18
2013/2014	11,049	19
2014/2015	11,432	17
2015/2016	11,777	19
2016/2017	13,301	21
2017/2018	14,668	18
2018/2019	16,017	22
2019/2020	17,024	40
2020/2021	17,513	39
2021/2022	18,242	

ブルガリアにおける新型コロナウイルス感染

症の流行とオンライン化の影響は、多くの情報源から報告されている。2020 年春、約 25,000 人の学生を対象とした調査では、95% の学生がオンライン教育に切り替わり、3 分の 2 以上の学生が「その学年を無事に修了したことに満足していた」、しかし、14～21% の学生がオンライン学習のさまざまな側面に対する不満を表していた (Osis、2020b)。2022 年 1 月の調査では、VTU での回答者の 4 分の 1 がオンライン授業に不満を感じ、効率の低さ、退屈さ、モチベーションの低下について不満を述べていた (Tran & Marinova、2022b)。

## 2. 3. ブルガリア高等教育の国際化

最も広く使用されているヨーロッパの学術交流プログラムの 1 つは Erasmus、または Erasmus Plus であり、これらは 1987 年に開始され、主な目的は共通のヨーロッパ市場の創出を支援することであった。このプログラムは、すでに欧州連合外の国との交流の拡大を可能にしている。1999 年のボローニャ宣言 (Bologna、1999) は、高等教育システムの共同単位認定 (*Academic credit portability*) を目指すプロセスである高等教育の EU 国際化の出発点であった。教育単位の可搬性に関するヨーロッパのシステムが導入され、学生と教師の流動性を促進するための資金が投資された。約 3、400 人の学生と 28 人の博士学生は 2020 年春に外国の大学との共同プログラムで勉強している (Osis、2020a)。

ブルガリアの高等教育は、高等教育の EU よび世界市場への統合に関連するいくつかの大きな課題に直面している。大学のランキングに関しては、ブルガリアの高等教育機関は国際的な高等教育の分野で依然として取り残されている。世界のトップ 500 の最も権威のある大学にブルガリアの大学は入っていない (THE、2023)。Erasmus プログラムの下で交換留学生の数を増やす傾向があるが、ヨーロッパの大学ネットワークにおけるブルガリアの大学の存在は重要ではない (Petrov、2021)。

ブルガリア共和国の高等教育発展戦略 2021-2030 年 (MES、2021) では、高等教育の国際化が高等教育の優先分野と目標の中に設定された。目標 4. 高等教育の国際化と国際的な教育科学ネットワークへの参加では、具体的な目標と成果指標が設定されている。ほとんどのブルガリアの各大学では、国際化の戦略計画をすでに作成している。共通の機能として、Erasmus プログラムは、EU 内の大学のパートナーである学術機関での学生交換を可能にする。

## 2. 4. ブルガリアでの日本学

国際交流基金によると、2018年5月から2019年3月までは、ブルガリアには小学校で400人、高校で539人、大学レベルで142人を含む1,347人の日本語の学習者がいる。表3は、日本語教育機関数、教師数、学習者数とその内訳を示したものである。(国際交流基金、2018)。

表3 ブルガリアの日本語教育の変遷  
(国際交流基金、2018)

	2012	2015	2018
機関数	9	7	8
教員数	36	33	40
学習者数	1,570	1,245	1,347
小学校	473	467	400
中等学校	902	504	539
高等教育	145	207	142
その他	50	67	266

現在、学位専門科目としての日本学研究は、ソフィア大学(SU)とVTUのみで提供されている。ソフィア大学東洋言語文化センター内にある日本学研究科は、SUの日本研究の本部である(写真2)。



写真2 ソフィア大学東洋言語文化センター  
(2022年11月、著者による写真)

SUは、ブルガリアで最も古く、最大の大学であり、学生の全国シェアは10%、博士課程の学生の30%以上を占めている。SUは学士号、修士号、博士号の日本学専攻コースを持つブルガリアで唯一の大学である。1967年に初めて日本語コースが開講され、1990年には日本学修士課程が開設された。2018年3月に、日本学科は東アジア言語・文化学科から独立して、設立された。このプログラムには、日本語と文学の理論と実践、古代から21世紀までの日本の歴史、日本の芸術、宗教、哲学、伝統文化と現代文化の必修、選択、選択のコースが含まれている。これまでに、日本研究プロ

グラムは300人卒業生を超え、ブルガリアで活発な日本学コミュニティを形成した。学位プログラムの他に、SUでは2015年から定期的開催されている日本語によるバルカン半島サマーキャンプなどの文化交流イベントも実施している。

国際交流基金(JF)は共産党政権下の1981年にSUへの派遣を開始した。2009年まで、JICAのJOCVスキームは、日本の日本語教育に大きく貢献してきた(伊藤他、2018; 水上、1995)。JFは2008年から2019年にかけて、日本語専門家と日本語助手の2名を派遣し、2019年以降は専門家は1名のみ派遣している(山口、2019)。この派遣制度により、日本は持続可能な日本語教育の仕組みを作ることができた(高橋、2021)。

日本語能力試験(JLPT)には、1998年から2019年まで12月の第2回試験のみ実施され、2020年には試験が中止され、2021年から再開された(6月と12月)。表4では、JLPTの受験者総数は着実に増加し、N3~N5レベルの受験者の割合が最も高くなっていることがわかる(JLPT、2022)。

表4 ブルガリアの JLPT 受験者数  
(JLPT、2022)

	N1	N2	N3	N4	N5	合計
2010年	13	18	29	76	67	203
2011年	14	25	53	77	85	254
2012年	10	18	53	74	70	225
2013年	23	24	46	64	103	260
2014年	10	23	61	81	117	292
2015年	21	17	64	94	105	301
2016年	18	37	67	88	124	334
2017年	14	45	65	94	113	331
2018年	23	41	58	95	89	306
2019年	24	39	89	79	125	356
2020年						0
2021年1*	18	45	63	87	121	334
2021年2*	9	27	32	34	53	155
2022年1*	4	23	24	30	55	136

1970年代以降、ブルガリアの学生は文部科学省の奨学金プログラムの下で日本に留学することができた(Holodovich、2000)。1970年から1990年にかけて、ブルガリア人留学生のほとんどは工学、経済学、医学を学んでいた。1990年以降現在に至るまで、日本文化の学生により多くの留学生枠が与えられている。2019年度は、研究生8名、日本文化研究生6名、学部生2名に文部科学省奨学金が授与された。2023年には、大使館推奨する文部科学省の奨学金の枠は、学部レベルで10人、研究生で4人になる(MEXT、2022)。



### 3. ヴェリコ・タルノヴォ大学での現状

#### 3. 1. ヴェリコ・タルノヴォ大学について

ヴェリコ・タルノヴォ大学「聖キリルと聖メトディー」(VTU)は、ソフィア以外で最古で最大の文系大学であり、ブルガリアの芸術と人文科学の中心として高く評価されている。1963年に設立されたVTUには、経済学部、教育学部、美術学部、歴史学部、法律学部、文献語学部、正教神学部、哲学部、数学・情報学部の9つの学部がある。VTUでは、ブルガリア語、英語、ロシア語で学士号、修士号、博士号を取得できるプログラムを提供している。VTUは、日本の6つの大学を含む35か国の100以上の大学および機関と学術交流協定を結んでいる。



写真3 メイン キャンパス VTU  
(2022年11月、著者による写真)

VTUには、131人の留学生を含む10,000人以上の学生が在籍しており、留学生は世界25か国から：オーストリア、アルバニア、ベラルーシ、アフガニスタン、キプロス、イギリス、ドイツ、ギリシャ、イエメン、カザフスタン、モルドバ、ナイジェリア、ラトビア、リビア、オランダ、フランス、ロシア、クロアチア、ウクライナ、ニュージーランド、マケドニア、ポーランド、スペイン、トルコ、ルーマニアから集まっている(2020年1月現在)。この学生数は、新型コロナウイルスパンデミックにより、減少している。現在の留学生は、Erasmusプログラム、政府間協定、または二国間学術協定などの奨学金によって、私費または支援を受け、学士号、修士号の学位プログラムに登録されている。

2022年11月訪問の際に、講義室、学生寮、食堂、図書室など、設備の整ったVTUのインフラを見学した。これらの施設は頻繁に改装され、ブ

ルガリアの学生と同様に留学生によく利用されている(写真3-8)。



写真4 VTUの学生寮  
(2022年11月、著者による写真)



写真5 VTUの図書館内  
(2022年11月、著者による写真)



写真6 VTUの食堂内  
(2022年11月、著者による写真)

#### 3. 2. VTUの国際化戦力に向けて

他の高等教育機関と同様に、VTU も 2020 年から 2023 年までの国際化戦略計画を承認した (VTU, 2020)。この文書によると、VTU のビジョンの 1 つは、「学術コミュニティと教育内容の高度な国際化」を達成することで、戦略目標 1「学生、教職員および非教職員の国際的なモビリティを強化する、外国人学生を引き付けることを重要にする」、戦略目標 4「キャンパスの国際化と組織の能力」では、「留学生が学ぶ専門分野の改善と増加」、「Erasmus 他により、留学生のためのインターンシップを提供する」である。



写真 7 VTU での日本の文化祭 2019 年

国際学生交換のために、VTU はヨーロッパの高等教育地域に統合するための Erasmus の枠組み内での協力を重点を置いている。表 5 は、VTU の 2020 年から 2023 年までの期間の国際化戦略計画で指定された具体的な活動を示している。この計画は、主に Erasmus プログラムからの短期交換留学生を受け入れることを目的としている。

表 5 VTU 短期留学生移動促進活動

#	活動
1	Erasmus プログラムによる留学生の増加
2	外国人留学生のための VTU におけるメンター制度の検証と推進
3	外国語センター、外国語学習学科、エラスムス オフィス、通信教育センターなど、新入生が VTU でインターンシップを実施する機会の増加
4	VTU で Erasmus の留学生のソーシャルネットワークの作成
5	Erasmus 留学生の宿泊と授業のためのより良い条件を提供し、二国間交流協定で学生の数の増加
6	留学生向けの短期アートワークショップを開催、および VTU で実施するための外国人講師の招聘

VTU は、日本、中国、韓国など、ヨーロッパ以外の国と共同活動を行っていたが、VTU で勉強しているこれらの国からの学生の実数の数はまだ十分ではない (表 2)。日本との連携の場合、日本語・文化センターは 1993 年から活動しており、日本との交流活動の促進に貢献している。図 6 は、2019 年に開催された、新型コロナウイルスパンデミック発生前の定期的なイベントである日本文化祭の様子を示している。

しかし、VTU の戦略計画には、留学生の移動やヨーロッパ以外からの高等教育機関との協力を促進するための具体的な行動は明記されていない。2022 年 11 月 24 日に VTU の副学長および文献学部長との面談によると、VTU は日本、特に TU のような国立および研究志向の大学との幅広い協力ネットワークを模索することに非常に興味を持っている。Erasmus、日本政府、財団、民間を含む、国際交流のためのリソースを探すことを優先する必要がある。2023 年には、VTU と TU は Erasmus+ プログラムに共同で申請する必要がある。これが成功すれば、毎年、各大学から最大 4 人の学生と 2 人の教職員が交流訪問に参加することができる。

### 3. 3. VTU での日本語教育

1993 年、VTU は応用言語学専攻の日本語を専攻する最初の学生を受け入れた。文献学部の古典・東洋言語文化学科では、応用言語学を専攻する学生は第二外国語の一つとして日本語を選択することができる。通訳・翻訳者の養成を目的として、日本語の授業の他に、日本文学、歴史・文化、翻訳・通訳、構文・形態論などの授業も開講している。

2019 年に外国語モジュールに日本語が統合され、VTU の学生は誰でも専攻に関係なく、日本語、日本の歴史・文化、構文・形態論、文学を学ぶことができる。現在、「応用言語学」と「教育学」を専攻する VTU の学生は、日本語を 2 つの外国語オプションの一つとして、次の専攻選択肢がある：

(1) 応用言語学 2 外国語通訳、(2) 応用言語学 英語と第 2 言語とコンピューター技術 (3) 応用言語学とビジネスコミュニケーション、(4) 応用言語学と国際観光、(5) 応用言語学と国際関係、(6) ブルガリア語および外国語教育学。現在、VTU には、20 年以上の経験を持つ 4 人のブルガリア人教師と、1 人の日本人教師がいる。

現在、これらの専攻分野は VTU のお気に入りの 1 つである。日本文化、歴史、文学、翻訳、日



本語を外国語として教える方法論、日本語学の専門家など、優秀な教員陣を擁する。現在、60名を超える学生が日本語コースに在籍している。教員は、ブルガリア人講師4名と日本からの派遣講師1名（日本人 ICEA ボランティア）である。学生は、週に約5～6コマを受講する。毎年、日本語を勉強している学生は日本語能力試験を受験、日本の大学での1年間の交換留学に挑戦、日本語弁論大会に参加、日本文化祭等を主催する。これまでに、日本の大学との学術交流協定に基づき、VTUの学生が日本に留学し、日本人の学生はVTUでブルガリアの歴史と文化を学びにくる実績がある。

### 3. 4. VTU 日本語・文化センターでの文化交流活動

1993年には、JICAの知的・技術支援プログラムを通じて、VTUに日本語・文化センター(CJLC)と新規専攻「応用言語学・日本語」とともに設立された。CJLCは、日本語と日本文化の教育、日本文化の普及、日本におけるブルガリア文化の普及の3つの分野で活動している。CJLCは学術活動の他に、書道、折り紙、切り絵、日本人形作りなど、ヴェリコ・タルノヴォ市民向けの公開講座や交流活動に取り組んでいる(CJLC、2022)。

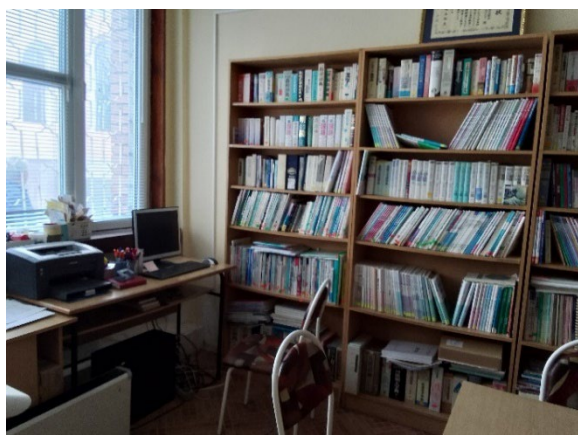


写真8 CJLCにある日本語の教科書等  
(2022年11月、著者による写真)

CJLCは積極的に国内外の大学からの代表团、客員教授、学生の受け入れている。「日本文化と近代日本」、「縄文時代～狩猟採集社会」、「日本の地理的条件」、「くらしと経済」、「ごみの分別」、「食文化・お弁当」、「100円ショップのかっこいい和雑貨」、「日本の社会問題」、「関西弁～日本の文化と歴史～」などのテーマで、VTU学生への日本文化に関する講義が国内外から頻繁に行われている。

CJLCは、ブルガリア日本語教師会などの学会のイベントも主催している。2017年と2018年には、国際交流基金の支援により、ブルガリアにおける日本語と日本文化の教授法に関するセミナーが開催された。このセミナーは、ブルガリアの個々の教育機関における日本語と日本文化の教育の現状と、強力な協力ネットワークを構築する機会について検討することを目的としていた。日本の大学と国際交流基金からのゲストスピーカーと、「ブルガリアで開催される日本語と日本文化に関連するイベントと、それらが言語学習者をどのように刺激するか」についてのディスカッションが行われた。

CJLCは、日本の大学との国際協力の促進に積極的に取り組んでいる。2012年以来、VTUは東京の文京学院大学と協力協定を締結し、続いてVTUで文京学院大学の教授との交流学術会議が開催された。2014年には、東京社会福祉大学の代表团がVTUを訪れ、ブルガリアで学ぶ機会を学生に紹介した。

2013年5月、VTUと共愛学園前橋国際大学(KGUM)との間で学術交流協定が締結された。2015年から毎年、KGUMの5～13人の学生のグループがVTUに短期留学している。1週間のプログラムには、ブルガリアの歴史と文化に関する講義、選択されたトピックに関する2つの大学の学生間のディスカッション、およびVTUの日本語学生によるガイド付きのヴェリコ・タルノヴォの文化的および歴史的名所への訪問を含む文化プログラムが含まれる。

学術交流活動以外にも、CJLCは、日本文化祭、日本映画週間、日本文学の夕べ、コンサート、公演、子供向けイベントなどの文化活動に積極的に取り組んでいる。CJLCは、国内外からの代表团や訪問者を積極的に受け入れている。たとえば、2011年5月に大阪民族博物館から代表团を迎えた。彼らの訪問には、ディスカッションとプレゼンテーション、伝統的なブルガリア料理と日本料理の準備、ヴェリコ・タルノヴォ市とアルバナシ村の散歩が含まれていた。

1997年5月、CJLCは、JICAの日本人ボランティアの日本語教師の主導で第1回日本文化祭を開催した。「文献学部の日々」のイベントの一つとして開催され、毎年全国から400名以上が参加する大規模な国民的行事となっている。日本人ボランティアと日本大使館の助けを借りて、この伝統を生かしている日本語の学生が継続的に実施している。毎年、このイベントは、VTU学長、在ブ

ルガリア日本大使、在ブルガリア日本大使館文化担当官、その他の日本人ゲストの出席の下で開催される。日本庭園、日本の祭り、音楽、古典文学、演劇、詩、日本料理の実演やワークショップ、寿司、武道、着物、書道、切り絵などのトピックに関するプレゼンテーションを含むフェスティバル中の活動ダンス、音楽と歌、舞台芸術講談などを行っている。2022年11月の訪問中、「日本文化祭 2023」は準備中であった。

### 3. 5. TU との交流活動

2020年の初めから、新型コロナウイルスパンデミックの影響を受けて、新しい交流機会を模索するために、TUとVTUの間でいくつかの交流活動が開始された。2020年7月、2021年6月に2回、両大学の学生によるオンライン交流会を実施し、各大学の学生が紹介を行った（写真9）。

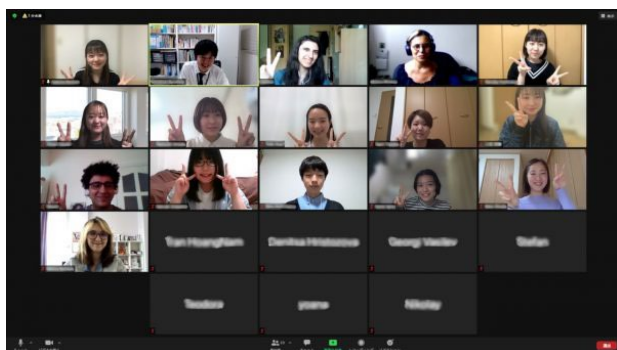


写真9 オンライン交流会（2021年6月）

また、TUの学生から成人式やアニメの紹介もあった。また、四国遍路や阿波おどりなど日本文化のレクチャーも予定している。2020年10月、TU教員による「日本人とのコミュニケーション」のオンライン講義がVTU学生に配信された。参加学生は、応用言語学または教育学を専攻し、第二外国語として日本語を学習し、中級レベルの日本語を話すことができる学生であった。参加者のニーズ調査の結果、日本語のコミュニケーション（100%）、日本の伝統文化（67%）、マンガとアニメ（67%）、武道（50%）についてもっと学ぶことに興味を示していた。キャリアプランについては、67%が日本に関連する仕事を見つけることを期待し、50%が日本についてもっと研究することを期待していた。日本への留学意向については、文部科学省の奨学金を希望する者がいる一方で、私費留学生として日本に留学する意向を示した者はいなかった。

### 3. 6. 日本語学習の動機と日本留学への関心

2022年11月の訪問中、現在VTUで日本語を勉強し、授業を受けている約20名の学生との交流会を行った（写真10）。学生の専攻は、応用言語学等2年生と3年生と4年生で、日本語能力はN5～N2程度だった。学生は、2022年12月にJLPL試験のためにソフィアに行く予定である。著者は「日本と日本の大学生活についてのプレゼンテーション」を実施し、その後に学生との質疑応答セッションを行った。

日本語を勉強する動機について尋ねると、ほとんどの学生は、日本のマンガ、アニメ、映画、そして日本文化全般に惹かれていると答えた。日本語能力を向上させる方法を尋ねたとき、学生たちは、言語を上手に話すためには、会話の授業時間がもっと必要であると述べた。日本人学生との交流に興味があり、短期滞在の日本人学生をビジターとして招待し交流することを望んでおり、また、直接会う機会がない場合は、オンラインでの交流会でも良いと述べた。これは、日本人学生との交流にブルガリア学生のニーズと関心を調査するための探索的調査の一環であった。日本への留学については、文部科学省の奨学金などを日本で取得するのは難しい、全額奨学金なしでは留学できないなどの意見があった。セッション終了後、学生たちへ、日本語学習に影響を与える要因と日本留学の意向に関する定量的データを収集するためのオンライン調査フォームを紹介した。この調査の結果は、今後の論文で発表する予定である。



写真10 著者とVTU学生との交流（2022年11月、著者による写真）

### 3. 7. 国際学会

VTUは頻繁に国際学会を開催し、主にヨーロッパ諸国からの学者を引き付けて参加した。文献学部は、海外やブルガリアから学者を引き付けて研究成果を共有し、国際的な研究協力ネットワー



クを拡大するために、毎年 6~7 回の国際セミナー等を開催している。それらの学会は、言語、文化、コミュニケーション、メディア、バルカン半島の歴史と文化など大幅のトピックをカバーしている。



写真 11 VTU 主催の国際学会  
(2022 年 11 月、著者による写真)

著者は、ブルガリア滞在中に 2022 年 11 月 25~26 日に開催された「バルカン半島・地中海・東洋の文化と宗教国際学会」に参加し、自分の教育研究成果「留学生の日本文化理解度を測定するケーススタディ」を発表した。本学会は、2 日間で 5 カ国から 50 名を超える研究者が参加していた (写真 11)。

#### 4. 考察

ブルガリアでは、日本語は外国語の一つとして人気がある。日本語や日本文化への関心は、学生だけでなく一般の方にも高く評価されている。ブルガリアの学習者の日本語学習の動機に影響を与えるいくつかの要因がある。1989 年以降の東欧の変化に伴い、日本の文化や伝統芸能、マンガ・アニメ・J-POP などのポップカルチャーへの関心が若者を中心に新たな波を迎えた。大学環境では、比較的新しい分野である日本語教育と日本研究が関心を集め、ある程度の人気を博した。表 1 に示すように、学習者と教師の総数はピークに達した後、2015 年のある時点で減少し、その後再び増加した。教育機関は日本語や日本文化の講義を中止したが、大使館の文化行事や各教育機関の日本文化祭を多くの人々が訪れている。日本語と日本文化はその後とも人気が続いているようである。

ブルガリアでは、国民が持つ日本に関するイメージにはハイテク、豊かな文化、有名な企業、社会的調和のポジティブなどが挙がる (Petkova, 2012)。査によると、多くの学習者は、高等教育機

関や公開講座で日本学について学ぶ動機として、日本文化、日本の政治経済、日本語に対する純粋な知的好奇心を挙げている。観光ガイドや日常的に日本語を使う仕事に就きたいというケースもあるが、アニメやマンガをきっかけに日本語を学び始めたという方も多い。就職に結びつけるのではなく、ポップカルチャーを含む日本文化を理解することを目的としていた。これらのケースでは、日本語を勉強する動機は、文化や日本人とのコミュニケーションをよりよく理解し、より知的になりたいという願望によって引き起こされた。学士課程に入学した学生の多くは、卒業後に何をするかはっきりしなかった。彼らの多くは、国際関係、芸術、文化、語学教育、翻訳の分野で働くことを期待している (Petkova, 2015)。

日本語学習の動機については、2005 年の調査によると、学生の動機は日本文化であり、ブルガリアが EU に加盟した後、日本語を使用する機会や日本企業で働く機会が学生の動機となっている。日本への留学を希望する学生は多くなかった (Vassileva, 2005)。今回 2022 年 11 月の探索的調査では、日本文化に対する魅力と、将来の仕事での日本語の使用について、同じパターンが示された。大学院の学位を取得するために日本に留学する意向を表明した学生が多くない理由は、奨学金の取得の難しさに関連していた。日本語学習の目的の 1 つは、日本での 1 年間の交換留学の機会を得ること、または MEXT の奨学金を得るために競争することであることが分かった。しかし、オープンコースには、医科学、工学などの他の専攻分野の学部生や大学院生がたくさんおり、文部科学省の奨学金枠は限られている。日本学の勉強への動機に対するもう 1 つの要因は、1990 年以降、多くのブルガリア人が米国、西ヨーロッパ、およびその他の先進国に移住したことで、一部の人は、日本語資格が有利になる可能性があると考えている (Holodovich, 2000)。

日本人教師が不足している。さらに、文化交流活動のための資金も不足している。大学の資金は非常に限られており、民間部門は学術活動への投資にあまり関心がない。このような状況では、大学は外部資金とボランティア活動を求めなければならない。それでも、国際交流基金、在ブルガリア日本大使館、文部科学省、その他の財団などの日本の当局による施設の支援や教師の派遣は、ブルガリアでの日本語教育を促進する上で非常に重要である。一方、他のアジア文化の人気が高まっていることも、ブルガリアの日本学コミュニティに課題をもたらしている。ブルガリアの学生にとって、生活水準の違いから日本への留学は依

然として困難と捉えられている。

これまで30年間、VTUはブルガリアでの日本の促進、経験の蓄積、より良い学術的および文化的交流の目標のためのアプローチの多様化に多大な努力を払ってきた。日本の大学との学術協力パートナーシップを拡大し、文化交流の新しいモデルを見つけることは、VTUとそのパートナーの両方に利益をもたらす、ブルガリアでの日本研究の学習のレベルアップに貢献する可能性がある。

新型コロナウイルスパンデミックの発生に伴い、セミナー、学会、学者交換等もオンライン化し、VTUとの学術協力がオンライン教育交流を実験的に展開する可能性がある。文化交流活動やイベントを実施するには、文部科学省、JSPS、JASSO、国際交流基金、その他の団体や企業など、EUと日本の機関やプログラムからの技術的および財政的支援を申請することが不可欠である。VTUで実施している短期留学モデルは、日本人学生の派遣プログラムを設計する際の参考になると考える。

## 5. 終わりに

大学の国際化は、質、可視性、流動性に対処する必要がある。ヨーロッパの教育空間は、ブルガリアの外交政策にとって非常に重要である。ブルガリアの大学の方針は主にEU内の統合と協力に固執していますが、ヨーロッパ外、特に日本との協力を強化する必要性と関心が高いように思われる。

日本の文化はブルガリアで非常に人気があり、ブルガリア人は、日本や日本文化について学ぶことに高い関心を持っている。日本語は、学生の間で学びたい言語の1つになっており、日本語を勉強している何百人もの学生が、日本人のネイティブとの接触をもっと必要としている。また、大学院で日本文化をもっと学びたいと考えており、一部の学生が奨学金を得て日本に留学したいと考えている。日本学専攻の学生の多くは、将来の仕事のために日本語を使う必要がある。

ブルガリアにおける日本との交流の大きな必要性と、利用可能な人的および物的資源によって制限されている現在のギャップを考えると、ブルガリアとのより多くの交流活動を促進する可能性は、両国に多くの利益をもたらす可能性がある。TUとVTUの間の学術協定は、将来の他のEU諸国との協力のモデルとなるために、学術交流のさ

らなる発展の足がかりとなる可能性がある。

## 謝辞

ブルガリア訪問には、公益財団法人国際文化交流事業財団（JICEF）の令和4年度人物交流派遣・招聘事業からの助成を受けております。心より感謝申し上げます。また、訪問先のヴェリコ・タルノヴォ大学、在ブルガリア日本大使館、ソフィア大学の関係者の皆様にも感謝申し上げます。

## 参考文献

- Bologna. (1999). *Bologna Declaration on the creation of a pan-European higher education area*. <https://accreditation.org/explore-accreditation/accords/bologna-declaration-1999>
- CJLC. (2022). 研究文化活動. VTU. <https://www.uni-vt.bg/bul/pages/?page=4151&zid=111>
- Higher Education Act*. (1995). <https://lex.bg/laws/ldoc/2133647361>
- Holodovich, L. (2000). Japanese Studies in Bulgaria. *Japanese Studies around the World*, 93-100.
- Infostat. (2022). *Mobile students enrolled by educational qualification degree and country of prior education*. [https://infostat.nsi.bg/infostat/pages/reports/query.jsf?x\\_2=1124](https://infostat.nsi.bg/infostat/pages/reports/query.jsf?x_2=1124)
- JLPT. (2022). データで見る日本語能力試験. <https://www.jlpt.jp/statistics/archive.html>
- Mancheva, G. (2018). *Youliana Antonova - Murata: "In Japan people talk with great respect and love about Bulgaria."* <https://bnr.bg/en/post/101052964/youliana-antonova-murata-in-japan-people-talk-with-great-respect-and-love-about-bulgaria>
- Manolov, R. (2021). *Can the European Green Deal solve Bulgaria's demographic crisis?* EURACTIV Bulgaria. <https://www.euractiv.com/section/climate-environment/news/can-the-european-green-deal-solve-bulgarias-demographic-crisis/>
- MES. (2014). *Strategy for development of higher education in the Republic of Bulgaria for the periods 2014 - 2020*. <https://www.mon.bg/en/143>
- MES. (2021). *Strategy for development of higher education in the Republic of Bulgaria and 2021 - 2030*. <https://www.mon.bg/bg/143>
- MEXT. (2022). *2023年度大使館推薦による国費外国*

- 人留学生（学部留学生・高等専門学校留学生・専修学校留学生）の募集について。  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/ryugaku/boshu/1415354\\_00005.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/boshu/1415354_00005.htm)
- News.bg. (2022). *NSI: 220 thousand students have enrolled for the academic year 2021/22*. <https://news.bg/bulgaria/nsi-220-hilyadi-studenti-sa-se-zapisali-zachebnata-2021-22-g.html>
- Osis. (2020a). *Joint programs with foreign universities in Bulgaria*. <https://osis.bg/?p=3628>
- Osis. (2020b). *Opinion of students about online training amidst COVID-19 in spring 2020*. Osis. <https://osis.bg/?p=3637>
- Petkova, G. (2012). *Promotion and Reception of Japanese Culture in Bulgaria Promotion and Reception of Japanese Culture in Bulgaria* (Issue 1).
- Petkova, G. (2015). *Challenges and Perspectives: Japanese Studies in Bulgaria*.
- Petrov, P. (2021). Internationalization of Universities in the Context of Bulgarian Foreign Policy. *Educational Alternatives*, 19(1), 313-320. [www.scientific-publications.net](http://www.scientific-publications.net)
- Radio Varna. (2022). *Bulgaria - leader in the EU in terms of foreign medical students - News*. <https://bnr.bg/varna/post/101743386/bulgaria-parvenec-v-es-po-chujdestranni-studenti-po-medicina>
- THE. (2023). *World University Rankings 2023*. [https://www.timeshighereducation.com/world-university-rankings/2023/world-ranking#!page/8/length/25/locations/BGR/sort\\_by/rank/sort\\_order/asc/cols/stats](https://www.timeshighereducation.com/world-university-rankings/2023/world-ranking#!page/8/length/25/locations/BGR/sort_by/rank/sort_order/asc/cols/stats)
- Tran, H. N., & Marinova, K. (2021). Experiences of Veliko Tarnovo University in Academic Exchange and Cooperation with Japan. *Research Center for Higher Education Yearbook*, 2020, 1-6. <https://repo.lib.tokushima-u.ac.jp/115853>
- Tran, H. N., & Marinova, K. (2022a). Recruiting International Students and Internationalization Policies of Bulgarian Universities. *Tokushima University, International Office Bulletin*, 2021(December), 25-31.
- Tran, H. N., & Marinova, K. (2022b). Students' Experience Two Years Into the Pandemic at a Bulgarian University. *The Paris Conference on Education 2022: Official Conference Proceedings*, 135-144. <https://doi.org/10.22492/issn.2758-0962.2022.12>
- Vassileva, M. (2005). ブルガリア人の日本語学習者における動機付けの種類. 第2回ブルガリア日本語学・日本語教育学シンポジウム、ソフィア市, 34-40.
- VTU. (2020). *Veliko Tarnovo University: Strategy for Internationalization 2020-2023*. 1-7.
- Zhelev, P., & Peneva, M. (2018). Challenges to Internationalisation through Foreign Students' Attraction - A Case Study of A Bulgarian Public University. *Conference Paper*, 24-36. [https://www.researchgate.net/publication/344689430\\_Challenges\\_to\\_Internationalisation\\_through\\_Foreign\\_Students'\\_Attraction\\_-\\_A\\_Case\\_Study\\_of\\_A\\_Bulgarian\\_Public\\_University](https://www.researchgate.net/publication/344689430_Challenges_to_Internationalisation_through_Foreign_Students'_Attraction_-_A_Case_Study_of_A_Bulgarian_Public_University)
- 伊藤、みちる, 工藤、理恵, & 徳松、紀子. (2018). 長期的視座で捉える青年海外協力隊による日本語教育 — ブルガリア・ジャマイカ・ベトナムの三学習者の事例研究 —. 28, 752-792.
- 国際交流基金. (2018). *Survey on Japanese-Language Education Abroad*. <https://www.jpf.go.jp/e/project/japanese/survey/result/>
- 在ブルガリア日本国大使館. (2022). ブルガリアの対日友好協会. [https://www.bg.emb-japan.go.jp/itpr\\_ja/culture\\_organizations.html](https://www.bg.emb-japan.go.jp/itpr_ja/culture_organizations.html)
- 外務省. (2022). ブルガリア共和国基礎データ. <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/bulgaria/data.html#section5>
- 山口サトル. (2019). *The Activities of Japanese-Language Specialists and the Spread of Japanese Culture in Bulgaria*. 国際交流基金. <https://www.jpf.go.jp/e/project/japanese/teach/dispatch/voice/voice/touou/bulgaria/2019/report01.html>
- 水上優二. (1995). ブルガリアにおける日本語教育の現状. <https://www.nier.go.jp/saka/pdf/N07009016.pdf>
- 高橋トモヤ. (2021). *Japanese-Language Specialist Activities and the Spread of Japanese Culture in Bulgaria*. 国際交流基金. <https://www.jpf.go.jp/e/project/japanese/teach/dispatch/voice/voice/touou/bulgaria/2021/report01.html>



